

第61回いそご文化資源発掘隊 「赤い靴」と「青い目の人形」
 2つの童謡が繋ぐ横濱物語パート2
 ～赤い靴、異国の地へ～

開催日／2023年5月17日（水）

開催時間／14:00～16:00

会場／杉田劇場リハーサル室

参加者／45名

ゲスト

松永 春さん

（赤い靴記念文化事業団 団長）

田島 実季さん

（二期会所属／元赤い靴ジュニアコーラス団員）

司会進行 清水一徹（杉田劇場職員）

第1部

まずは『青い目の人形』『赤い靴』の作者について。作詞は野口雨情で本名は英吉。明治15年5月29日に今の北茨城市磯原で生まれた。



野口家は室町時代の武将、楠木正季の末裔にあるとされている。父の死により家督を継ぎ、半ば政略結婚の形で所帯を持った雨情だが、詩人としての夢があきらめきれず出奔。

その後、童謡の作詞で多くの名作を残した彼は北原白秋、西條八十と並び「童謡界の三大詩人」と呼ばれた。



その三人が揃った貴重な写真。(右から北原白秋、野口雨情。いちばん左が西條八十)



作曲者は本居長世で明治18年4月4日、東京府下谷区(現在の東京都台東区)御徒町にて生まれた。江戸時代後期に国学者としてその名を遺した本居長世の子孫である。長世も国学者になる

ことを期待されたが、彼は音楽家として生きていく道を選び東京音楽学校(現在の東京藝術大学音楽学部)に入学。ピアニストとして活動を始めた矢先、脳溢血を患い、後遺症による右手指の障害でその道を断たれた。その後、作曲家として童謡を中心に様々な作品を世に生み出した。



三人の娘、写真右から長女のみどり、次女の貴美子、三女の若葉…彼女らは童謡歌手として大きな脚光を浴び、日本のみならずアメリカでも今でいうところのツアーを開催するなど、その活動は大きな広がりを見せた。



これは雑誌「金の船」大正10年12月号。『青い眼の人形』が掲載されたときのもの。雨情と長世のコンビはこれに先駆け、大正9年3月号にて『葱坊主』という作品を共作しているのだが、その評判は今一つ

で、その後、同年9月号で発表した『十五夜お月さん』のヒットで勢いづいたところでの本作品発表となった。

今回のイベントタイトルの「青い目の人形」という表記だが、先の目次とは異なりこ



ちらの初版楽譜では「目」の字となっている。

その後、雨情が書いた童謡集『青い眼の人形』（金の星社）

大正13年6月1日発行の際に「眼」の字で書いたことで、現代ではその表記がスタンダードになっているのだが、小松耕輔編『世界音楽全集 第11巻 日本童謡曲集』昭和5年1月15日発行（春秋社）では再び「目」で表記されている。

さらにこの楽譜、拍子が4分の2拍子、現在は4分の4拍子に変更されている。大正11年5月15日発行の『本居長世作曲 新作童謡』第5集（敬文館）の楽譜で拍子が代わったようだ。

この改訂により、2拍子が生む快活さよりも、4拍子の息の長さによるメロディの流れが強調されたものになった。



この図のように、本来4分の2拍子のリズムの強さは1拍目が「強」、2拍目が「弱」となる。瀬戸口藤吉の「軍艦行進曲」などがその快活な特徴を顕著に表している。

それに対し、4分の4拍子は1拍目が「強」、2拍目が「弱」、3拍目は「中強」、4拍目が「弱」と、より息の長い歌謡的なメロディに効果的な拍子といえる。

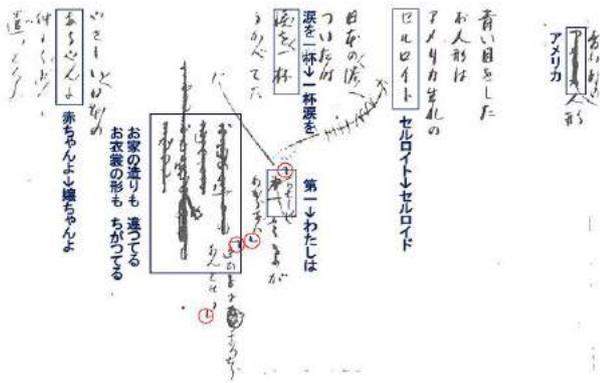
この変更によって、中間部のホ短調へ転調する箇所がさらに哀切を感じる音楽となるのが印象的である。



先に述べた『本居長世作曲 新作童謡』第5集なのだが、この2小節の前奏が、池田小百合さんという方のHP「なっとく童謡・唱歌」によると、J.S. バッハの「トリオ・ソナタ第6番 BWV530」の第1楽章冒頭をそのまま引用したものとの記載がある。実際聴いてみたところ、2小節目の3連符以外は、ほぼそのまんまである。とはいえ、彼が当時、ずば抜けて西洋音楽への造詣と理解が深かった人物だということが窺える仕事である。

さて、ここで今回の本題である「幻の歌詞」のお話となる。まずは『青い目の人形』から…この画像は、野口雨情直筆の『青い目の人形』草稿で、雨情の息子の野口存彌さんが所蔵していたもの。

実は当初の曲名も、『アメリカ人形』というのが浮かんだようで、こちらが消されて「青い目の」と横に書き換えられている。



また、「セルロイド」も「セルロイト」と書かれている。これは恐らく、この歌詞が書かれた当時はそのような発音だったのではないかと推察されるが、のちに「セルロイド」へ修正された。

これは誤字というよりは、当時の庶民的な言い回しが「セルロイト」として定着していたのではないかと、という推察がある。藤田圭雄（ふじた・たまお）さんの名著『童謡の散歩道』では、大正時代はデパートがデバート、エレヴェーターがエベレーターと呼ばれていたことを例に、セルロイドもそのように呼ばれていたのでは、という説を提唱している。

そして、現在の歌詞では「いっぱいなみだを～」とされている箇所は「涙を一杯」になっている。

また、「私は言葉が分からない」と「迷子になったらなんとしよう」が分かれてカッコ閉じされており、現在のものは「私は～なんとしよう」までひとつのカッコでくくってある。

一番の発見は完全に削除された歌詞のアイデア、「お家の造りも 違つてる お衣裳の形も ちがつてる」…異国における人形の哀しみを強調したかったのだと思う。

実際は現在の歌詞である「私は言葉が分からない～」と、どちらを採用しようか迷ったのではないかと考えられる。最後は「やさしい日本の嬢ちゃんよ～」が、当初は「赤ちゃん」だったこと…これは、対象となる人形の持ち主の世代イメージを再考したものであろう。

実際に書き連ねてみると、このような形になる。これはこれで、意味がはっきり分か

るものと感じられる。ただ、そのまま使うと節回しが冗長になり、様式的な美しさは損なわれるといえる。

それでは、これを実際にコンピュータによる合成音声（ヤマハの登録商標である「ボーカロイド」）で作成してみたので、聴いてみてほしい。【CD再生】



こちらは平成 8 年 11 月 1 日の東京新聞の記事。

それによると、国語学者の金田一晴彦さん(実は若い頃、作曲を本居長世に師事)が、『赤い靴』の 4 番の歌い方が現在と違っていた点を指摘し、本居三姉妹の三女である若葉さんも肯定的

な意見を述べている。



こちらは本居長世の自筆譜。

確かに自筆譜では「いまで一は」になっている。

ちなみに大正 13 年 4 月 23 日発行『金の星童謡曲譜第四輯 赤い靴』から、「いまで一」と楽譜に記載されていた。

以後に出版された楽譜もそれを踏襲したもので、現在では定着している。

決して本居若葉さんの意見が正しいとも思えず、楽譜として出版されたということは作曲者による変更が入ったと考えるのが自然である。

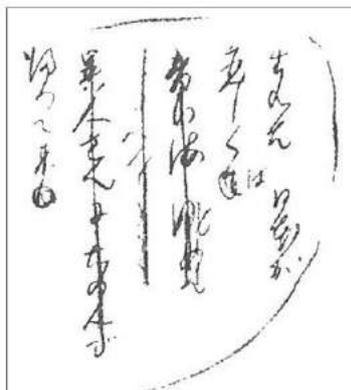


こちらは『赤い靴』の雨情による直筆の草稿、『青い眼の人形』と同じく、雨情の息子の野口存彌さんが所蔵していたもの。

3番の冒頭も現在では「今では青い眼に～」なのだが、当初は「青い眼の子供に～」だったのが分かる。

生れた 日本が 恋しくば
異人さんにたのんで 帰つて来

生れた 日本が 恋しくて
青い海 眺めて いるんだらう



こちらが「幻の歌詞」…縦線で消されているが、5番は「生まれた 日本が 恋しくて 青い海 眺めて いるんだらう」、6番は「生まれた 日本が 恋しくば 異人さんに頼んで 帰ってこ」。

5番は現在の4番同様、第三者が赤い靴の女の子のことを想う視点が感じられるが、6番については赤い靴はいてた女の子の視点にやや近づいた印象で、文字通り「生まれた 日本が 恋しいのなら、異人さんに頼んで帰ってこよう」といったニュアンスがはっきり浮かんでいる。

そこには希望とも、叶わぬ夢とも捉えることが出来る二重の意味が感じ取られるが、童謡として考えた場合はやや難解な印象も出てくるので、最終的には不採用だったのかもしれない。

発掘隊特別ステージ

「赤い靴はいてた女の子の像」と共に
海を渡った声

ソプラノ：田島 実季

(二期会 準会員／元赤い靴ジュニアコーラス団員)

ピアノ：中村 牧 (杉田劇場 館長)

第2部の前に特別ステージを用意した。今回はアメリカ・サンディエゴの「赤い靴はいてた女の子の像」除幕式の際、その場にいらした田島実季さんをお招きし、歌を披露していただいた。

田島さんは赤い靴ジュニアコーラス出身、その後も研鑽を積み、現在は二期会の準会員として、英米歌曲を得意レパートリーとして活躍中。

まず、1曲目は『赤い靴』。ピアノは杉田劇場館長、中村牧の演奏。

続いて2曲目は『青い眼の人形』

最後の曲は、アメリカ人にとっては大変重要な愛国歌、『アメリカ・ザ・ビューティフル』。NFLの優勝決定戦として開催される「スーパーボウル」では、国歌に先駆け必ず歌われる作品である。

<https://youtu.be/jJNaklccg7w>

第2部

第2部はゲストに赤い靴記念文化事業団の団長、松永春さんをお迎えし、みなと横浜のシンボルといえる「赤い靴はいてた女の子の像」の建立にまつわるエピソードをお伺いした。

松永 みなさん、こんにちは。松永春でございます。

私は14歳から16歳まで陸軍少年飛行学校にいました。その頃は日本にいてもどうせ死ぬんだから、それなら飛行機乗りになろうと思っていたのです。

2年間学んで、やっと飛行機に乗れること

になったら、日本には練習機が 1 機もありませんでした。そこで 16 歳の私が 160 人を連れて、今は韓国ですが当時の朝鮮に行ったのです。しかしガソリンも無くなって、そのうち敗戦になり日本に帰ってきました。



そして何か仕事をしなければと考えていたところ、友達から「朝、横浜公園に並ぶと仕事があるよ」と教えられて行って見ました。

そうしたら大きな男の人がいて、「食事付きで一日 20 円の仕事がある」というんですね。順番に呼ばれて私が連れて行かれたところは警察署の留置所でした。そこで、「鉄格子のサビをサンドペーパーで落とし、そのあとペンキを塗るように」と言われたのです。生まれて初めて人さまからお金をもらって仕事をするので夢中になってやりました。そしたらきれいになりまして、自分が入りたくなくなってしまいました。(爆笑)

それをずっと見ていた水兵さんが「あんたはよく働くな～。留置所で働いているのはかわいそうだな」と言うんです。それに対して「いや、一日だけなんです」と答えると、「そしたら、うちに来い」と言うんですね。隣に Fleet Post Office (米国海軍郵便局) があったんです。ここはアメリカから船で日本に届いた郵便を仕分けして配る部署です。

そこで中学程度の英語を使って働いたら、だんだん可愛がられてきたのですが、そのうちに船でアメリカに行きたくてしょうがなくなってきたんです。

そうしたら水兵が言うんですね。「この船

は来週、アメリカのサンディエゴに行くから、そのまま潜っていればいい」と、潜る場所を教えてくれたんです。

これでやっとアメリカに行けると思っていたのですが、やがて着いたところは韓国の仁川 (インチョン) でした。(笑)

そして次は「今度は絶対に行けるぞ」ということで乗って行ったら、着いたところは台湾の基隆 (キールン) でした。(笑)

そこで頑張れ頑張れと自分を鼓舞して乗っていたら富士山が見えてきたんですよ。戻ってきちゃったんですね。

その水兵さんがいい人でね、私がどうしてもアメリカに行きたい、アメリカの大学に入りたいと言うと、本当にセットしてくれたんです。サクラメント州立大学です。

当時、飛行機代が 288,000 円なんですよ。私は 1 日 500 円しかもらっていなかったもので、とても無理ですよ。

そしたら彼がハワイの JAL にその全額を送ってくれて、私は一銭も支払わずにアメリカに行くことができたのです。

ロサンゼルスに着いたら、力道山にバッタリ会ったんです。知り合いじゃなくて初めて会ったんです。

「おまえ、何しに来たの？」と聞かれたので、「学校に勉強しに行くんです」と答えたら、全米を 99 日間、無料で乗降できるバスのパスをくれたんです。これで私は無事に大学に行くことができました。

大学では「何をしたいの？ どんな科に入りたいの？」と聞かれましたが、何も考えていなかったんですね。「そんな学生いるかよ」と言われて、日本ではアテネ劇場で映写技師のアルバイトをしていたと言うと、その人が「自分の弟子がハリウッドでそういうことをやっているの、そこに行け」と。

大学に行きながらその技術も学べると言うんですね。もちろん単位は取れると……。

あれ～？ なに喋っているんでしょうかねえ。(笑)

清水 いやいや、ここまでは前説ということで…。

これからが第 2 部の本番です。

(ここから清水による解説と松永さんのお話を交えながら進む)



横浜市中区(山下公園)
『赤い靴はいてた女の子像』
山本正道 作
昭和 54 年 11 月 11 日 完成

昭和 54 年、山下公園にて日の目を見た「赤い靴はいてた女の子像」、以後は横浜のシンボルとして、また貴重な観光資源としての役割を担うことになった結果、モデルの佐野きみに所縁のある街は続々と新たな「赤い靴の女の子像」を作成した。



北海道虻田郡留寿都村(赤い靴公園)
『母思像』
米坂ヒデノリ 作 平成 3 年 10 月 完成



北海道小樽市(運河公園)
『赤い靴 親子の像』
ナカムラ アリ 作
平成 19 年 11 月 23 日 完成



静岡県静岡市
清水区
(日本平山頂付近)
『母子像』
高橋剛 作
昭和 61 年
3 月 31 日 完成



東京都港区
(麻布十番商店街
パティオ十番)
『きみちゃん像』
佐々木至 作
平成元年
2 月 28 日 完成



北海道函館市
(函館西波止場前)
『赤い靴 少女像』
小寺 真知子 作
平成 21 年 8 月 7 日 完成



青森県西津軽郡鰺ヶ沢町(海の駅わんど)
『赤い靴 親子三人像』
田島義明 作
平成 22 年 11 月 3 日 完成

昭和 61 年以降にこれだけの数の「赤い靴の女の子像」が全国各地に造られたことが分かる。



次に紹介するのは、JR 横浜駅の南口(当時)に造られた、山下公園のミニチュア版である「赤い靴はいてた女の子像」のお話。

現在の横浜駅東西自由通路にある「赤い靴はいてた女の子像」だ。



この新聞記事は、昭和 57 年 8 月の「赤い靴コーナー」除幕式のものである。



その時の様子。前年に東西自由通路が開通し、横浜駅がなお一層の盛り上がりを見せる最中、式は華やかに執り行われた。

写真には、横浜を代表する作曲家・高木東六と女優の沢田雅美も写っている。

さて、この赤い靴ミニチュア版は 999 体作られているのだが、今日はそのうちの 1 体をお持ちの方が来られていた。



「赤い靴はいてた女の子像」のミニチュア版。これは杉田でこんにやく店を営んでい

た水野さんが保存している 321 番の像。この日、参加者の皆さんに見ていただいた。

てから、みなとみらい線の工事と駅構内の改装工事を理由に撤去された。



こちらの新聞記事は、平成 2 年 1 月の「赤い靴コーナー」再設営についてのもの。記事によると、最初の設営後、横浜駅の窓口増設工事で倉庫送りになってしまったとのこと。どうやら、再設営された当時の像には『赤い靴』のメロディが時報代わりに流れるという仕掛けがあったそうだ。現在は大変にぎやかな場所にあるためか、その音を聴くことはできない。



その間は東神奈川駅近くの倉庫に保管されていたとののだが、戻るのは早くても平成 16 年頃の見通しだった。

しかし、「東洋のサグラダファミリア」とも呼ばれている横浜駅、現在までも続く改装工事の影響もあり、最終的には平成 22 年 12 月 1 日に現在の場所へ戻ってきた。



こちらの新聞記事は、再設営後、早々の受難について…「赤い靴はいてた女の子像」が、台座からもぎ取られたという事件。幸い、像そのものは持ち去られることはなかったのだが、修復に 1 週間ほど掛かったとのこと。



こちらは復旧時の記事。併せて「赤い靴」グッズの販売についても採り上げられている。『赤い靴』と『青い眼の人形』の英語版のミュージックテープについて書かれている。

横浜駅の待ち合わせ場所のひとつとして有名になった「赤い靴はいてた女の子像」。平成 10 年に入っ



現在の横浜駅東西通路の様子…小さな「赤い靴はいてた女の子像」がかわいらしく、ガス灯を模した電飾に彩られている。

数々の文化交流活動を進めてきた赤い靴記念文化事業団だが、その活動も少し紹介しておきたい。



これは事業の一覧である。いちばん上に書いてあるのは「赤い靴児童文化大賞」。毎年、児童文化の向上に貢献した映像、出版、音楽、福祉の作品やそれに携わる人を選考委員会で選び顕彰している。

現在までの受賞者

第1回	大賞	詩集「夕方のにおい」	坂田 寛夫 様
	特別賞	赤い靴はいた女の子	菊地 寛 様
第2回	大賞	虹伝説	ウル・デ・リコ様
	大賞	虹伝説 音楽	高中 正義 様
第3回	大賞	やあごんには 作曲	高木 東六 様
	大賞	やあごんには 作詩	小黒 恵子 様
第4回	大賞	映画「南極物語」監督	蔵原 惟緒 様
	特別賞	映画「南極物語」	制作委員会 様
第5回	大賞	語り節「吉田橋」作家	長崎源之助 様
	大賞	語り節「吉田橋」	松本民之助 様
	大賞	語り節「吉田橋」	東京城北青少年少女合唱団 様
第6回	大賞	さっちゃんの求婚うた	先天性四肢障害児父母の会 様
第7回	大賞	こどものオペレッタ	下井田博子とオペレッタ 様
第8回	大賞	大洋球団	屋鋪 要 様
第9回	大賞	ダ・カーポ	榎原まさとし・広子 様
第10回	大賞	横浜市	横浜市長 結郷 道一 様
第11回	大賞	JR 横浜駅	横浜駅長 向山 栄一 様
第12回	大賞	メセナ	オリエンタコーポレーション 様
第13回	大賞	こどもの詩集	青い窓の会 様
	特別賞	児童文学	こやま峰子 様
第14回	大賞	ボランティア バングラディッシュに学校をつくる会	様
第15回	大賞	特別養護老人ホーム「さくら苑」	苑長 桜井 里二 様
第16回	大賞	ボウイスカウト	ジョン・ミトワ 様
第17回	大賞	ポニージャックス	大町 正人 様
第18回	大賞	横浜ベイスターズ	鈴木 尚典 様
第19回	大賞	社会奉仕 愛知県岩倉市立南郷中学校3年3組	様
	特別賞	幼児教育	藤元 薫子 様
第20回	大賞	国際奉仕	東 ちづる 様
第21回	大賞	国際ボランティア	小山内美江子 様

こちらは、第22回「赤い靴記念文化大賞」授賞式のリーフレットからの抜粋。

受賞者の顔ぶれが豪華。第2回にギタリストの高中正義、第3回はのちの選考委員長である高木東六、副委員長で作詞家の小黒恵子などの名前が！

他には野球選手の屋鋪要、東ちづる、小山内美江子などそうそうたるメンバーが受賞されているが、第24回でこの事業は終わっている。

次に赤い靴児童劇団。演劇、ミュージカルを通じて豊かな人間性を養い、ステージマナーを身につけて、将来、堅実な社会人、芸能人として活躍できるための演技、ダンス、朗読などのレッスンや公演を行っている。

もう一つの大きな事業が高齢者の合唱団ザ・シワクチャーズ横浜。

高木東六が沖縄に行ったときに、この名前の合唱団があり「これはフランス語みたいで面白いじゃないか。横浜にも作ったらどうか」ということで「ザ・シワクチャーズ横浜」という名前を付けて募集したら600人も集まり、世界最大の合唱団になった。

練習場所も大変なので、人形の家を借りて、まるで宝塚のように雪組・月組・花組と3つに分けて始まった。

その後は世界中を回っている。15か国くらい。イタリアにはメンバー70人と高木東六と行った。訪問先は「ヴェルディの家」。音楽家のための老人ホームである。

<https://x.gd/hhm1B>

本来ならここで演奏することはできなかったのだが、高木東六の名前と、手配してくれた方のおかげで歌うことができた。

(ヴェルディ：オペラの作曲家で『リゴレット』、『椿姫』、『アイダ』などの作品がある)

こういう素晴らしい演奏旅行を各国でさせてもらってきた。

もうひとつ。横浜少年少女合唱団に対抗して赤い靴ジュニアコーラスをつくった。今は人数が減っているが、100人も集まった。

こちらの合唱団もイギリスのフィリップ殿下の前で歌わせてもらっている。

ほかに「赤い靴カード」というクレジットカードの事業もあった。利用金額の一部が、赤い靴記念文化事業団へ寄附されるという、かなり画期的なカードだった。



横浜市は昭和 30 年 10 月に、サンディエゴ在住の村岡三郎氏（横浜市出身）の提案により、横浜市から雪見灯ろうを寄贈したことをきっかけとして、同年 11 月、横浜で開催された日米市長及び商工会議所会頭会議に出席したサンディエゴ市長チャールズ・C・デイル氏からの申入れを受け、昭和 32 年 10 月 29 日に姉妹都市の提携に至った。

以後、動物の交換や青少年交流など、様々な形での交流事業で関係を育んできた。

平成 27 年 9 月には、横浜市立金沢高等学校とミッションベイ・ハイスクールが姉妹校提携をし、相互訪問やオンライン交流を行っている。



この新聞記事は、姉妹都市締結から 51 年を経た平成 20 年のもの。計画では山下公園にある女の子像と同じものをアメリカに贈って、お互いに横浜からアメリカを見る、アメリカから横浜を見るという発想でいたのだが、最終的には山下公園の像はあの詩のイメージで造ったので、それと同じものをアメリカに置くというのは違う。

そんなことから赤い靴ジュニアコーラスの団員をモデルにして新しい「女の子」像を造ることになった。富山県高岡市在住の彫刻家である米納宗宏（こめのう・むねひろ）氏がデザインを行い、同地に拠点を持つ藤田銅器製作所が作成した。

このプロジェクトが本格始動した平成 21 年は「赤い靴はいたた女の子像」建立から 30 年、横浜・サンディエゴ友好交流 50 年、日本の童謡誕生から 90 年、そして横浜開港 150 周年という節目の年だった。



女の子像をアメリカに建てるための寄付のお願いパンフ



紆余曲折？の末に書かれた USA 版「赤い靴はいたた女の子像」のスケッチである。

セーラーベレー帽とセーラー服（赤い靴ジュニアコーラスのユニフォーム）に、横浜市の花であるバラと、サンディエゴ市の花であるカーネーションを持ったデザインとなっている。

建てる場所はサンディエゴのシェルターアイランド。山下公園によく似た、海が臨める公園である。



親善大使は杉田劇場の事業でも毎年のように出演している女優の五大路子さん。

除幕式の 2 か月前に掲載された新聞記事。

「小さいころから口ずさんでいた歌の少女が海を渡り、人と人との絆を作る友好の懸け橋になれば」と語っている。



At the unveiling ceremony, Haru Matsunaga, Director, The Akai Kutsu Commemorate Cultural Society, spoke about eternal friendship between San Diego and Yokohama.

平成 22 年 6 月 27 日。除幕式にて、赤い靴記念文化事業団団長の松永春氏が、サンディエゴと横浜の永遠の友情について語った。(記事のキャプション)



サンディエゴ市長、港湾局長、市会議員、領事館の領事、そしてサンディエゴ横浜姉妹都市協会のビショップ金子さんが除幕。



サンディエゴ市長と田島実季さん。

像の高さは台座を含めて 180 センチ。その台座は山下公園にある像の台座と同じ石材で同じサイズ。これはサンディエゴ市が寄付してくれた。



サンディエゴで行われた除幕式の様子を伝える平成 22 年 29 日の神奈川新聞。

山下公園の少女像を管理する赤い靴記念文化事業団の松永春団長は除幕式で、「赤い靴」の歌詞に「異人さんのお国にいるんだろう」とあることを念頭に、「外国に少女像を建てる夢を 30 年間持っていたが、多くの人に助けられて夢がかなった」



最後に、「赤い靴はいた女の子」像の第 3 弾を来年企画しているので、その紹介を少しだけ。

左は第 1 回赤い靴児童文化大賞[特別賞]を受賞した菊池寛氏の作品『赤い靴はいた女の子』。

「赤い靴」にはモデルとなる女の子がいたという話がある一方、それは作り話だとして否定する人もいる。

次回はここまで敢えて触れてこなかった「赤い靴はいた女の子」のモデルについて、お話しを進めていく予定。

<https://jin3.jp/kimi/kimi-1.html>【了】